

先進地事例について

「地域包括ケアシステム」について、本市での効果的・効率的な構築に向け、体制づくりや各種事業の取組経過、課題等を学ぶため、平成27年7月13日（月）に先行的に取組みを行っている南砺市を訪問した。

1 南砺市の基本情報

- ・人口：53,410人 高齢化率：34.5%
- ・平成24年度に医療担当課と介護施策担当課の連携を深めるため、地域包括医療・ケア局を創設。
- ・平成25年度から「認知症集中支援チーム」の取組みを試行的に開始。

2 在宅医療（人材育成）の取組み

- ・町村合併を契機に、南砺市では医療行政を担当する部署である医療局が設置された。
- ・医師不足を背景に地域医療を守るため、以下の①～③の取組みが行われた。

①「在宅医療推進セミナー」:

市民に医療知識を取得させ、病院のコンビニ受診を解消し医師の負担を減らすため開催。



南砺市の人材育成の取組み
南砺市在宅医療推進セミナー
(平成19年12月)

まずは医療知識を

- ◆ 平成16年4月から導入された新しい医師臨床研修制度の影響を受けて、地方の医師不足が深刻化。
- ◆ 南砺市も例外ではなく、地域医療を守るためには医師の負担軽減の対策が必要。
- ◆ 医療知識の取得を目的とした講座を開催することによって、病気の緊急度を適切に判断し、初期対応ができる医療・介護関係者や市民を育て、病院のコンビニ受診を解消し医師の負担を軽減することを目的に開催。
- ◆ 7回にわたり実施。

②「地域医療再生マイスター養成講座」:

①を受け、市民がどう活動していくかを目的に開催。市民以外にも様々な業種の方が参加し情報交換の場に。



地域医療再生マイスター養成講座

(平成21年10月開講)

住民自らが学ぶ

講座受講生は、様々な業種・立場・環境のメンバーで意見や情報の交換を行う場となっている。第6期(H26)で259名
 第1期開講定員：約50名
 医療局5名、医師5名、看護師/保健師10名、福祉職10名、診療技術職5名、住民15名
 (婦人会10名、女性議員5名)



富山県では、この講座を参考に「富山大学附属病院総合診療部や医師会と連携して実施する住民自らが取り組む住民参加型の地域包括ケアシステム推進事業」を実施しています。
 南砺市の講座は、第6回目から「地域医療・地域活性化マイスター養成講座」に名称が改められました。

※ のちに、地域包括ケアや地域活性化の概念が含まれることになり名称が変更。
 →「地域医療・地域活性化マイスター養成講座」



地域医療・地域活性化マイスター養成講座

第6期 (平成26年10月3日～11月28日)

回数	開催日時	カリキュラム内容	講師
第1回	10月3日(金) 18:30～21:00	【総論】 ○地域医療の課題 ○地域再生システム論	富山大学附属病院 総合診療部 教授 山城 清二
第2回	10月17日(金) 18:30～21:00	【各論1】 ○自己開発法、四画面思考法 自分ごとで働く・成功の宣言文	北陸先端科学技術大学院大学 客員教授 近藤 修司
第3回	10月30日(木) 18:30～21:00	【各論2】 ○地域医療の取り組み例 のびのび能美! ヘルスケア・コミュニティの創造を目指して	芳珠記念病院 理事長 仲井 培雄
第4回	11月14日(金) 18:30～21:00	【各論3】 ○地域活性化の取り組み例 みんなで創りなあれ、医療と地域	福井県高浜町 和田診療所 所長 井階 友貴
第5回	11月28日(金) 18:30～21:00	【各論4】 ○地域活性化の取り組み例 ここから始まる! 地域包括ケアのまちづくり	独立行政法人 労働政策研究・研修機構 研究員 堀田 聡子
第6回	11月28日(金) 18:30～21:00	【報告会・まとめ】 ○成果発表 ○修了証授与	

※ のちに、市民の有志グループが独自に組織され、市民向けの地域包括ケア関係パンフレットを発行。

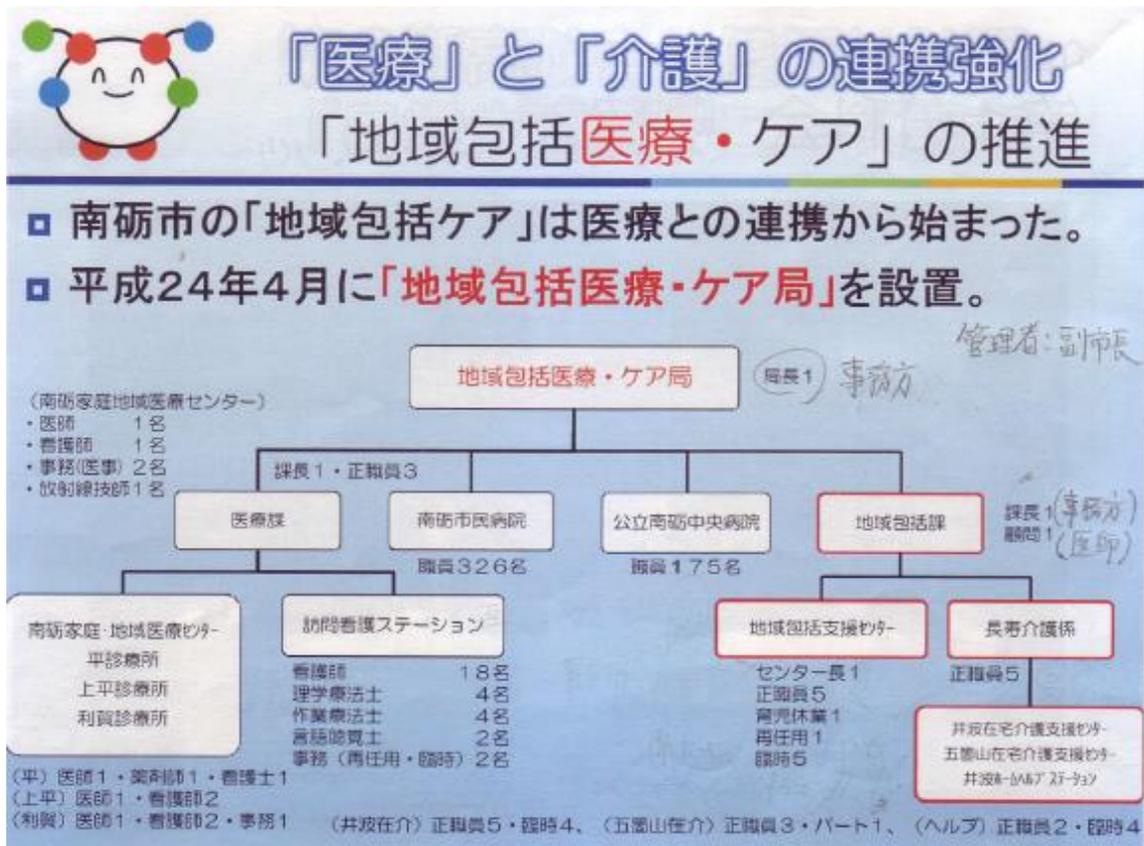


③ 「地域医療を守り育てる会」:

②を受け、より市民へ活動を広げていくため年3回の勉強会。

3 「医療」と「介護」の連携強化（地域包括医療・ケア局）の取組み

- ・南砺市において、地域包括医療・ケア局が地域包括ケアシステムの構築を推進する部署。
- ・地域包括ケアシステムの構築に向けた動きの高まりに合わせ、平成24年に医療局を地域包括医療・ケア局に改編。
- ・医療系の部署に在宅医療・介護連携を担う役割が与えられた形。
- ・医療側 → 2市立病院や医療課（訪問看護ステーション、診療所等）。
- ・介護側 → 地域包括課（地域包括支援センター(直営1センターのみ)、長寿介護係）
※地域包括課に顧問として医師が付いている。



4 その他

◆住民参加を目的に、看取りに関するシンポジウム、小中学生を対象にした講演会等

地域包括医療・ケア推進プロジェクト事業 **① 住民参加を促す**

地域で在宅看取りを支えるまちづくり

シンポジウム
平成28年
8月23日(土)
9:30~12:00(開場9:00)

会場 **ア・ミュージックホール**
〒904-8602 南砺市 南砺市ア・ミュージックホール TEL. 0763-64-1400

定員 **200人** 入場無料



特別開演 9:30~10:20
『いのちをつなぐということ〜あなたも大切な看取りに学ぶ』
國森康弘 氏 (NHK「サザン」)

パネルディスカッション 10:30~12:00
『地域で在宅看取りを支えるまちづくり』

主催：南砺市 後援：社会福祉法人南砺市社会福祉協議会 南砺市地域包括医療・ケア推進プロジェクト委員会
問い合わせ：南砺市地域包括医療（移行行政センター） TEL. 0763-23-2034 FAX 0763-64-2550



■國森康弘氏プロフィール

神戸新聞社記者を経てイラク戦争を機に独立。ソマリア、スーダン、ケニア等の紛争地や経済貧困地域を回り、国内では、戦争体験者や野宿労働者、東日本大震災被災者たちの取材を重ねる。近年では滋賀県（東近江市永源寺地域等）東北被災地などで看取り、在宅医療、地域包括ケアの撮影に力を入れている。

■職歴・経歴

- 1998年 京都大学経済学部卒業
- 2000年 京都大学経済学研究科修士課程修了
神戸新聞社記者
- 2003年 イラク戦争取材を機に独立
- 2007年 イギリス・カーティフ大学ジャーナリズム学部修了
- 2010年 國森写真事務所設立

・小中学生を対象とした講演会も開催

◆医師会主催の多職種連携会議



独居・老老…幅広く支援

多職種連携 地域で包括ケア

南砺市の全人口に占める65歳以上の比率は30%を超え、全国平均より20年ほど遅いペースで高齢化が進む。市内ではこれまで南砺市民病院（南員司院長）や市医師会、同市訪問看護ステーション（村井直樹美所長）を中心に、医療と介護部門が緊密に連携した在宅サービスを展開。訪問診療や看護、在宅リハビリなどを率先して取り組み、お年寄りが安心して暮らし、住み慣れた地域で過ごせる環境づくりを進めてきた。

こうした実績を土台に、さらに多くの職種の連携を進め、一人暮らし高齢者や老老介護世帯などへの支援を充実させたい考えだ。参加するのは開業医や訪問看護師に加え、作業療法士などのリハビリスタッフ、ホームヘルパー、市社協関係者ら。市医師会理事の南市民病院院長は、その時々々の病気の状況や生活上の課題などに対応できる人材がチームを組め、お年寄りをサポートできればいい」と語る。

住民らが身近な高齢者や障害者の安全に目配りし、こみ出しをしりする「ケアネットワーク」活動の連携も緊密にしていく。

医療・介護にとどまらず、生活支援も含めた幅広いサービスを提供する体制は「地域包括ケア」と呼ばれ、国が各地での普及を目指している。南砺の動きはこうした国の方針に合わせた取り組みだ。22日夜に南砺市常木（福光）の市医師会事務所で開催した会合ではメンバーが症例や研修の進め方を協議。今後定期的に集まり、連携強化やスキルアップを目指す。

佐伯会長は「多職種の人が一堂に集まって共通認識を深め、横のつながりを強化したい」と話している。

南砺 ーは医療、介護の専門家のほか、リハビリスタッフやホームヘルパー、社会福祉協議会関係者、病状や体調に合わせたサービスを切れ目なく提供する体制の構築を目指している。〔南砺総局長・宮田求〕